

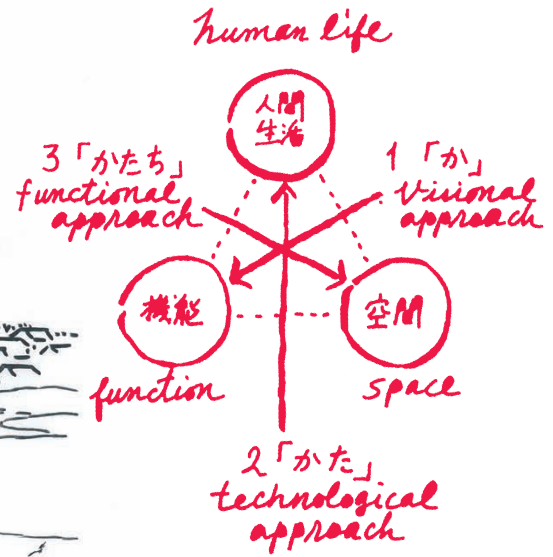
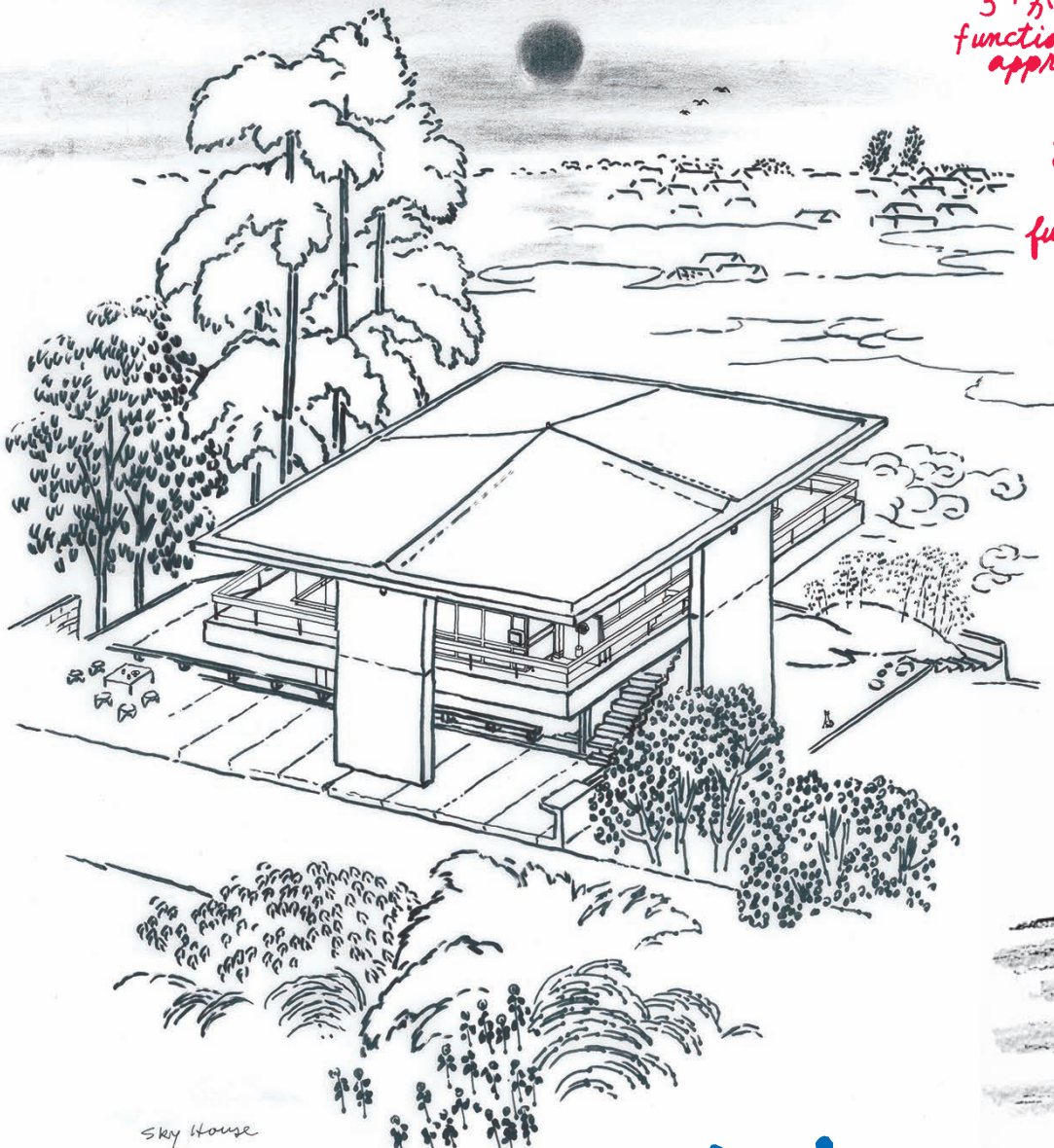
# The Spirit of Architecture, Kiyonori KIKUTAKE in Architectural Archives

October 29 wed, 2014 – February 1 sun, 2015

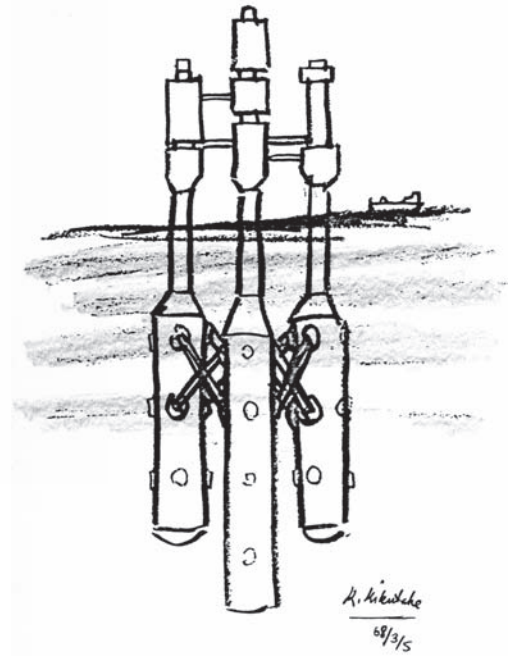
Open hours | 10:00-16:30 (Closed November 1 sat, December 29 mon-January 3 sat)



Foto Kiyonori Kikutake



©Kawasumi & Kenji Kobayashi Photograph Office



sky house  
K Kikutake

## 建築のこころ アーカイブにみる菊竹清訓展

2014.10.29(水)–2015.2.1(日) 開館時間 | 10:00–16:30  
休館 | 11.1(土)/12.29(月)–1.3(土)

### 入場方法 |

◎展覧会のみ観覧(平日のみ)：事前申込みの上、湯島地方合同庁舎正門よりご入館できます。申込み詳細はHPをご覧ください。入館無料。

◎都立旧岩崎邸庭園と同時観覧：都立旧岩崎邸庭園からもご入館できます。(事前申込み不要) 旧岩崎邸庭園(一般)400円が必要です。

主催 | 文化庁 協力 | 株式会社 菊竹清訓建築設計事務所、公益財団法人 東京都公園協会 制作協力 | 早稲田大学、菊竹清訓展実行委員会

会場 | 文化庁 国立近現代建築資料館

〒113-8553 東京都文京区湯島 4-6-15 Tel.03-3812-3401 Fax.03-3812-3407

<http://nama.bunka.go.jp/>

National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

4-6-15 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8553, Japan

文化庁

国立近現代建築資料館

National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs

建築家菊竹清訓は、生涯を通じてその代表的な論考「代謝建築論」を礎に置いて、精力的な建築活動を行い、東日本大震災のあった2011年の12月に、享年83歳で他界しました。日本から世界へ向けて発信され、大きな影響力をもったメタボリズムグループの建築家の、中心的なメンバーの一人として、今日なお注目され続けています。

その活躍した時代は、第二次世界大戦後の復興に始まり高度経済成長を迎え、東京オリンピックや大阪万博が開催されるなど、日本の戦後近代の顔がつくられてきたともいえます。奔流のように流れ込む海外からの文化が国内に浸透し、生活スタイルも大きく変化する中で、菊竹は日本人としての誇りや日本文化のアイデンティティの喪失を危惧し、人間と「こころ」をかよわせる建築、人間のこころを育む建築を目指しました。その次世代に向けたメッセージは、グローバル化した今日、地球環境の保全が叫ばれる現代社会にあって、より一層示唆的なものとなっています。

その活動を振り返る本展では、原図や当時の写真、スケッチやメモ、模型などの建築資料を4つの視点から紹介し、生活環境の問題と格闘し、生涯を建築家として生きた菊竹の根底にあった大胆な発想や思想の原点に触れたいと思います。

## 1. 大地からの離陸

スカイハウスや  
京都の国立国際会館設計競技案

たびたび氾濫する筑後川の近くで育ち、農地解放によって地元久留米の一家の土地をほとんど失った経験から「土地を安全不変のものとしてその上に安住せず、人間の立つ地面は人間が造る」思想が培われた。代表作である《スカイハウス》(1958)や京都の《国立国際会館設計競技案》(1963)を中心にその原点をたどる。

## 2. 水面からの浮上

メタボリズムの思想と  
海上都市への展開

1960年東京での世界デザイン会議に「メタボリズム」の思想と造形を示し、都市建築・デザインの広範な領域に影響を及ぼした。中心となったテーマは、「海上に都市を築く」アイデアである。建築を都市の問題につなげ、人工環境のあるべき姿に対して、今日につながる数々の提案を行った《海上都市》(1960)を中心にその真髄に触れる。

## 3. 空気を包む

萩市民館から都城市民会館、  
軸力ドームとその発展

大地、海から離陸した建築を数多く発表した菊竹は、その一方で、空気を包み込むように環境をつくるドーム型建築を構想する。《ハワイ海上都市》(1971)での高層棟を取り巻く展示館の「膜構造」や、「軸力ドーム」の原点となった《萩市民館》(1968)にみられる鉄骨の天蓋方式、《都城市民会館》(1966)などの系譜を通してその構想を知る。

## 4. 現代への挑戦

出雲大社から、東光園、  
徳雲寺納骨堂へ

時の社会に多くの議論を巻き起こした菊竹は、先端的な技術革新が、建築・都市・環境を大きく変化させることを強く実感し、人々の生活空間と先端技術の関係に注目した。「重要なことは未来に対するイメージの変化をどう読みとるにかかっている」という強い信念を、《出雲大社庁舎》(1963)、《東光園》(1964)、《徳雲寺納骨堂》(1965)、などの計画を通して見る。



1) 京都の国立国際会館設計競技案 断面図 2) 海上都市1963の原型となったスケッチ 3) 都城市民会館 矩計図 4) 東光園 構造模型 ©Takashi Oyama

### ●シンポジウム

日時 | 2014.11.30(日) 13:00-16:15

会場 | 早稲田大学 大隈大講堂(東京都新宿区戸塚町1-104)

◎Session 1 「菊竹清訓のこころ」 13:00-14:30

◎Session 2 「現代・未来への挑戦」 14:45-16:15

出演者 | 伊東豊雄、内藤廣、中谷礼仁、原田敬美、古谷誠章、穂積信夫、松隈洋

出演者は都合により変更する場合がございます。詳細はホームページでご確認ください。

申込み方法 | 当日先着順(定員:1200名)

問い合わせ先 | 早稲田大学創造理工学部建築学科(担当:高瀬信吾)  
exhibition@furuya.arch.waseda.ac.jp

### ●ギャラリートーク

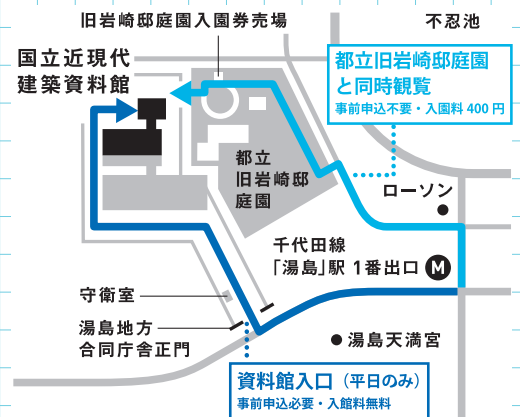
会期中に菊竹清訓建築設計事務所元所員等によるギャラリートークを実施します。  
詳細はホームページでご確認ください。

会場 | 文化庁 国立近現代建築資料館

〒113-8553 東京都文京区湯島 4-6-15 Tel.03-3812-3401 Fax.03-3812-3407

http://nama.bunka.go.jp/

National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs  
4-6-15 Yushima, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-8553, Japan



アクセス |  
千代田線「湯島」より徒歩3分 / 銀座線「上野広小路」より徒歩10分  
大江戸線「上野御徒町」より徒歩10分 / 山手線「御徒町」より徒歩15分

文化庁

国立近現代建築資料館

National Archives of Modern Architecture, Agency for Cultural Affairs